

地方小出版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 136円)
年間	1,500円(税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会〒162-0836 東京都新宿区南町 20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

☆ 上毛新聞社「上毛賞」に //

黒沢正則著『論集 明治十七年十一月 藤岡・秩父自由党事件』が受賞
群馬県文学賞評論部門『広域蜂起 秩父事件』受賞に続き

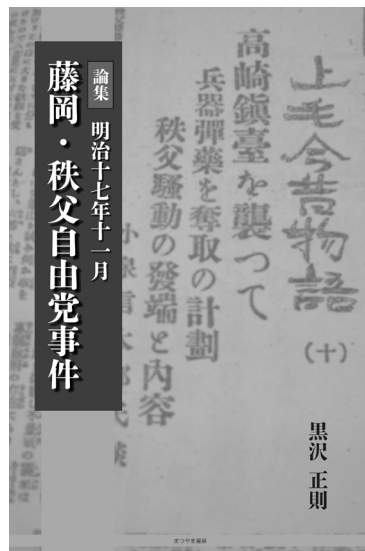
文・まつやま書房会長 山本正史

今年の3月に群馬県の新聞社・上毛新聞社が主催する「上毛賞」出版部門に、まつやま書房が出版した黒沢正則著『論集 明治十七年十一月 藤岡・秩父自由党事件』が受賞した。著者は群馬県藤岡市育ち、在住である。この本は2024年9月に、秩父事件研究顕彰協議会編『秩父事件ガイドブック改訂版』とともに出版されていた。著者の黒沢さんは、この『ガイドブック』の執筆にもかかわっている。

選考経過として、次のように記されている。

秩父事件を「藤岡・秩父自由党事件」として捉えるべきだ」と主張する論文集が、長期にわたる調査を基に事件に関する新たな視点を提示していると評価された。

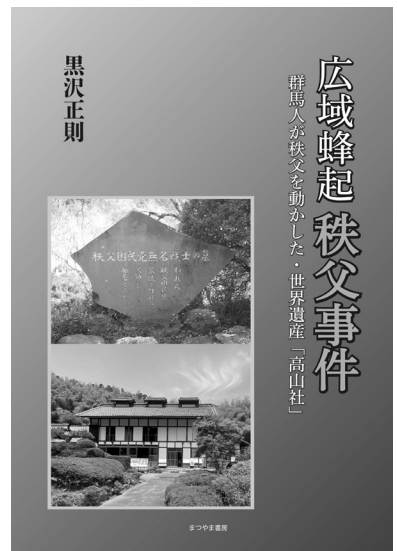
選考経過は以上。実際、この本に関する初めての打ち合わせの時に、著者から題名を『藤岡・秩父自由党事件』にぜひしたいのだが、と言われ当惑したのを憶えている。2024年は明治17年(1984)11月に秩父事件が発生して以来、140周年にあたる。であるから、小社としても秩父事件を盛り上げたい、本を出版したいとの思いがあった。ではあるが、題名が『藤岡・秩父自由党事件』では、いったい何の事件という思いがまず起こるであろうし、秩父事件との関係はという疑問も発生するであろうと考えた。そこで、著者に「明治十七年十一月」を入れましょう、それなら読者は秩父事件に新たな視点を入れて出版したのだと理解できるでしょうと提案し、出版となったの



『論集 明治十七年十一月 藤岡・秩父自由党事件』発行：2024年9月／定価：1800円＋税／ISBN978-4-89623-222-6

である。

著者はこの本以前の2022年12月に『広域蜂起 秩父事件—群馬人が秩父を動かした・世界遺産「高山社」』を小社から出版していた。副題の「群馬人が秩父を動かした」で了解されるように、秩父事件への関与で、群馬人が大いに動いていたと主張していたのである。この『広域蜂起 秩父事件』出版の前に、『現政府ヲ転覆シ直ニ国会ヲ開ク革命ノ乱ナリ』を文芸社から2021年に出版していた。この『広域蜂起 秩父事件』は、その前著を軸に、一般にわかりやすく、体系的にまとめたものであった。この本は、



『広域蜂起 秩父事件—群馬人が秩父を動かした・世界遺産「高山社」』発行：2022年12月／定価：1600円＋税／ISBN978-4-89623-193-9

群馬県が主催する「第61回(令和5年度)群馬県文学賞」評論部門を受賞している。

この受賞の作品解説を選考委員の一人、林 桂さんが長文で記している。その一部をやや長くなるが紹介する。本書は秩父事件の概説書や入門書の類ではないとの、著者の「はしがき」を踏まえて、林さんは次のように記す。

まさしく「秩父事件初心者の方」の私たちが、かつ必読の文献も読まずに評価するのは、この書を研究書として読まずに、文学書として読んだからである。したがって、黒沢氏の歴史研究書としての評価を云々する立場には

なく、別にしかるべき秩父事件の研究者が行うものと考えている。

では、この本が単なる秩父事件の研究書ではなく、なぜ文学書として読むことができたのか。もちろん、黒沢氏が資料を長年にわたり読み込むことで、他の研究者が顧みないような些細な資料と資料が繋がって一つの見解を形作る、そのさまに遭遇することは感動的である。目前の研究論文を書くだけの目的で文献を読む研究書には見られないことだろう。長年、大小を問わずに文献を読み続けていることで、思わぬ繋がりに気づく。そんな論文の読み方が、随所から伝わってくる。しかし、それ以上に、黒沢氏が対象とする秩父事件にかかわる人物が、その人間性まで浮き彫りするように語られている。

林さんの作品解説は以上。まつやま書房では、1980年創業以来、9冊の秩父事件関係書籍を刊行してきた。第1冊目の本は新井佐次郎著『秩父事件小説集』（品切）である。1981年9月発刊。1984年の秩父事件百周年記念を迎えるにあたり、機運が盛り上がっていた時代である。当時は、秩父事件参加者は国賊扱いであり、その孫の世代もいまだお元気であったが、国賊の子孫故、事件参加を名乗れない時代であった。であるから、その復権と顕彰をというかけ声が盛んに呼びかけられていた。

『秩父事件小説集』発刊当時は、小生は県内の書店に電車で廻って営業をしていた。まつやま書房の3冊目の単行本であった。秩父の書店に伺った際、秩父事件を書ける人はいませんかとお聞きし、新井さんを紹介されたと記憶している。新井さんから雑誌「新日本文学」に掲載したものとあると言われ、出版したのである。事件幹部でない一般の事件参加者の取調調査を軸にしなが、実は被告の本音はこうであったと読み解いた小説集であった。「明治政府に反抗する」「恐れながら天長様」など充分、悪政との戦いを意識した小説集であった。幸い、この小説集は東京の古書店などにも好評であった。また、四谷の本屋から来ないかと言われ、行ったところ、その書店主は大逆事件の死刑囚の弟であった。大逆事件といい、秩父事件といい、その



『小説秩父事件 伝蔵』
発行：2022年4月／定価：1700円＋税
ISBN978-4-89623-169-4

形態は違うが、国権主義、軍国主義へと変節していった明治国家のなかで、国賊とされた思いは強いものがあると感じた次第である。小生は、ベトナム戦争真っ盛りの頃、1968年10月21日の国際反戦デーに逮捕され、有罪微罪（執行猶予）の判決を受けていた。明治大学のゼミの恩師、近代日本政治思想史の橋川文三先生（教授）に心配をかけており、この本を先生に持って行くとゼミ仲間に言われ、挨拶に行ったものであった。

2冊目は、1984年に埼玉新聞トップ記事で、熊谷市で死刑となった総理田代栄助の骨格が、埼玉県警察学校に標本として展示されており、その警察学校の学生であった、孫の小泉忠孝さんは警察学校を退学したという記事を読み、本にしたのであった。『鎮魂 秩父事件—祖父田代栄助に捧ぐ』（品切）である。

3冊目は、太田部という集落が秩父盆地北側の山間にあり、その北側では神流川を越えると群馬県である。当時は山持ちの裕福な集落であった。であるから、秩父事件参加の要請に、雇用している者、または新たに雇用してその呼びかけに対応したということをもとめた岩田泰治著『山間農村の秩父事件』（品切）という新視点の秩父事件本であった。1995年刊行。

また、2009年には田島一彦詩句集『蜂起の賦』（品切）を刊行してい



『秩父事件ガイドブック改訂版』
発行：2024年9月／定価：1300円＋税
ISBN978-4-89623-221-9

る。田島さんは、1972年に秩父文化の会を創立し、季刊文芸誌「文芸秩父」を発刊、誌面に熱心に秩父事件を掲載し、さらに1975年に秩父事件顕彰運動実行委員会を発足させ、委員長となっている。「文芸秩父」は145号まで長く刊行され、2009年2月に終刊している。

2022年には、八木静子著『小説秩父事件 伝蔵』を黒沢さんの本と同じ年に出版している。秩父事件会計長の井上伝蔵は、死刑の判決を受けながら、長駆北海道に逃げ延び、潜伏していた。大正7年（1918）に入り、死が間近に迫ると、秩父事件参加の井上伝蔵であると家族に告白したのである。『伝蔵』では、街おこし活動の仕掛け人であり、小鹿野歌舞伎の紹介人でもある画家小菅光夫さんの絵をカバー絵にし、好評であった。

先にも述べたが、2024年には黒沢さんの『藤岡・秩父自由党事件』とともに、秩父事件研究顕彰協議会編の『秩父事件ガイドブック改訂版』を発刊している。この本は事件参加者を地域ごとに紹介するとともに、主だった人のプロフィールを生き生きと活写しているのが特徴である。初代の協議会会長であった田島一彦さんに続く2代目会長の篠田健一さんは、まつやま書房と同じ東松山市に小鹿野町から転居され、八木さんの本の出版を紹介していただくとともに2024年の140周年記念で

は、さまざまなイベントを協力の形で実施し、大変お世話になっている。

さらに大澤謙司著『困民党の行く手を阻んだもの』を2024年11月に刊行している。この本は、歴史家であり、秩父事件研究者でもある井上幸治さん、色川大吉さんがつとに早く、秩父事件の研究を深掘りするためには、自警団の研究が必要であると指摘されていたが、社会科の高校教師である著者が生徒ともに、埼玉県平野部地域の秩父事件への対応を調査していったところ、多くの地域で、自警団を結成し、困民党軍への警戒を行っていたのに驚愕したのであった。黒沢さんの本とともに、秩父事件への視点が広がった本と言える。秩父事件の捉え方が深化した本を出せたのは幸運と言えよう。

小社が秩父事件に拘泥するのは、その参加した人々の個性の豊かさにあると言えよう。参謀長で信州から参加



『困民党の行く手を阻んだもの』
発行：2024年11月／定価：1500円＋税
ISBN978-4-89623-225-7

し、信州まで転戦した菊池貫平、恩赦で出獄した後、同志の顕彰に尽力した

落合寅市、副総理の加藤織平、乙大隊長の飯塚森蔵など、その人だけで一冊の本にまとめた人が多いのである。さらに今回黒沢さんの本により、田代栄助とともに秩父事件の首魁とされた小柏八郎治、また小柏常次郎、黒沢円造、小泉信太郎など、群馬県にも多彩な人物がいる。明治維新はまさに四民平等、国会開設、憲法発布など、自由民権運動と相まって、人は資本主義経済の発展に期待したのであろう。それゆえに、富岡製紙場とともに世界遺産に認定された高山社は新しい産業への架け橋となっていたのである。秩父事件は、明治維新のプラス面からも評価されていくだろう。

＊

(やまもと まさし／まつやま書房
会長)



新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『毛呂季光 一頼朝に仕えた名門一族八百年の軌跡』 ●内野勝裕 著



毛呂季光。源頼朝の側近大江広元の子毛利季光と名前が同じなので間違いやすいが別人である。毛利は相模だが、毛呂は武蔵国の地名である。季光は毛呂郷いまの埼玉県人間郡毛呂山町、そこを拠点とする武士である。あとで触れるが藤原季光とも呼ばれることもある。

本書が引用する「大谷木家系図」には同じ武蔵国の武士である畠山重忠とともに頼朝軍に招かれたとあるが、重忠が頼朝に帰伏した『吾妻鏡』の記事には季光の名はない。その後まもなくして『吾妻鏡』にも季光の名が登場するから帰順したことは間違いのない。

著者によると季光は頼朝の側近の一人だったという。側近といえば、大江広元以外にも北条時政・比企能員・安達盛長・結城朝光・土肥実平・和田義盛などが思い浮ぶが、季光の存在感

は薄い。たしかに『吾妻鏡』に21箇所季光は登場し、御家人として様々な役目を果たしていたことに気づく。

特記すべきは頼朝が季光を豊後国司に推挙したことであろう。推挙の理由は藤原季仲の孫だからだという。季仲は藤原北家で小野宮流始祖である実頼の後裔で毛並みは超一流。頼朝は一目置いたのだろう。頼朝の母熱田大宮司の娘は藤原南家で女系をたどると両者は血が繋がるといって、上級貴族と中級貴族という身分の差は抗えない。頼朝は権力基盤を固めるため同族を肅清していくことは周知のことだが、季光はその範疇には入らない。軍事貴族として成長するに足らなかったことも幸いしたのだろう。(I)

◆1800円・A5判・280頁・まつやま書房・埼玉・202503刊・ISBN9784896232271

『萩原朔太郎生誕130年記念トーク スター経営者、朔太郎の孫と詩を語る』 ●松本大・萩原朔美・塚本直樹 著



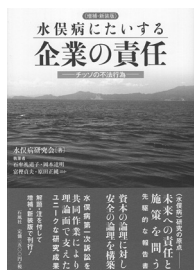
2016年10月15日に萩原朔太郎の生誕130年を記念して群馬会館で行われた記念トークの模様を収録した前橋ブックレットの1冊。朔太郎の孫にして、当時、前橋文学館長に就任したばかりの萩原朔美氏と、ネット証券大手のマネックス証券を一代で築いたスター経営者・松本大氏が、朔太郎の詩を巡って対談、日本経済新聞社の塚本直樹氏がコーディネイトと司会進行を務めた。松本氏は中学校の教材で「竹」などの朔太郎作品に出遭ってから、大手出版社の編集者だったという父親所蔵の全集をすべて

読むまでになり、この対談では、多くの詩人の中でも朔太郎が「スーパーアイドルでスーパースター」「オンリーワン」とまで発言して意外な素顔を見せる。また、ビジネス書は一切読まず、ビジネスには詩や小説のほうが役に立つ、というから驚く。

一方、朔美氏は「松本さんと違って朔太郎の詩、あんまり理解できなくて(笑)」と言って会場の笑いを誘う。(T)

◆600円・A5判・66頁・上毛新聞社・群馬・202505刊・ISBN9784863523616

『水俣病にたいする企業の責任 <増補・新装版>』 ●水俣病研究会 著



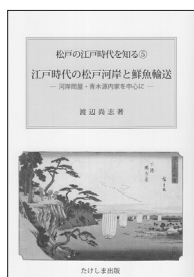
1970年8月に水俣病を告発する会から刊行された初版本は、前年に始まった水俣病第一次訴訟の理論的裏付けのために、市民グループ、法学・医学・工学・社会学等の研究者、チッソ社員らが緊急参集して結成した水俣病研究会が、徹底した議論、膨大な資料収集とその読み取りによってまとめた研究レポートである。僅か一年という期間で、A5判、400頁近い大著に仕上げたことに驚かされる。レポートは、「水俣病の恐るべき実態」、「水俣病発生の因果関係」、「水俣病におけるチッソの過失」、「加害者チッソの行動様式」の四部と、「資料（水俣病年表、水俣病認定患者名簿、水俣工場関係資料、訴訟関係資料、参考文献）」からなる。認定患者数は1970年7月現在で総数121人、うち胎児性23人、死亡者46人で、全員の患者番号、

氏名、生年月日、発病年月日、認定年月日、発病時家業、住所、没年月日が記録されている。あえて個人情報を開示したところに、事件に對峙する並々ならぬ決意が伝わってくる。裁判で原告団は当初、毒物・劇物取締法違反を主張していたが、このレポートを基に安全確保義務の企業責任を根底から問い、画期的な勝訴に結び付けた。増補・新装版は初版本以後に判明した事実や誤りを補注し、表記を読みやすく改めている。また50頁に及ぶ解題を付し、まだ終わっていないメタル水銀中毒事件<水俣病>の本質を明らかにする。原発事故の企業責任もこのように構築されるべきではなかろうか。

(飯澤文夫)

◆ 3500円・A5判・493頁・石風社・福岡・202503刊・ISBN9784883443307

『江戸時代の松戸河岸と鮮魚輸送』 ●渡辺尚志 著



「松戸の江戸時代を知る」シリーズの第5弾は松戸河岸にスポットを当てる。江戸中期、銚子で漁獲量が増加する。鮮度が命の魚を銚子から利根川を遡り、関宿から江戸川経由で日本橋の魚河岸まで船で運ぶのは面倒だ。そこで、より短時間で運ぶべく、利根川沿いの布佐で陸揚げし、馬で松戸河岸まで運んで、再び船に積み江戸に運ぶルートが重要になる。中継地点の松戸河岸は大いに栄え、河岸問屋は幕府から公認され、鮮魚輸送の中心的役割を担った。

本書では河岸問屋青木源内家の古文書を読み解き、船頭や馬方の不正、荷主との関係維持に腐心しながら、独占的営業権を守るために奮闘する様子が記される。本書を読んで少し意外だったことがある。シリーズ前作までは、従来の江戸期のイメージとは異なり、百姓たちが自

治権を持ち、領主に対して敢然と自己主張する様子を描いてきたが、本書では一転して、幕府の権威を利用して河岸問屋が次々と現れる競争相手を駆逐してゆく様子が描かれる。例えば19世紀初頭に輸送量が急増し、新河岸、新ルートを企図する競合相手がいれば、幕府に上申しで阻止する。これでは社会的なイノベーションが起こるはずもなく、停滞した江戸期の負の側面を再認識させられた。しかし明治期の鉄道開通による舟運業の終焉を知ると、少々切ない気分になる。今も立派な板塀に囲まれた青木源内家や納屋河岸の跡を、往時の松戸河岸の賑わいに思いを巡らせ、歩いてみたくなった。

(石井一彦)

◆ 1200円・A5判・125頁・たけしま出版・千葉・202504刊・ISBN9784925111799

『裏組織の脚本家』 ●林庭毅 著

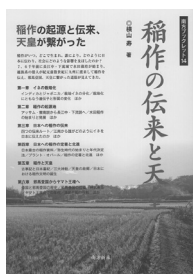


思い通りの人生を送れる人などまづいないが、もしも人生の台本を書き換えられるとしたら、人はどんな理想を描くだろうか。台湾の台北・西門町にある日本風居酒屋「浮木」には闇組織「ワラビ」のメンバーが潜伏していて、屋根裏にある「ワラビの部屋」に「新しい人生の台本」を持って入れば、人生を変えることが出来る。その台本を書くのが主人公の何景城。病院でクリニック・マネージャーとして働きながら小説家を目指し、舞台女優を夢見る恋人もいたが、交通事故で恋人と母を失う。失意の中、創作に活路を見出し、ネットで作品を発表しているとワラビの「監督」から声をかけられ、組織に加わることになる。店主でプロデューサーの呉延岡、美術担当の小松、カメラマンの凱文、そして謎の監督といったメンバーと共に

依頼者を待つが、利用するには、台本を書き換えるサンプルとなる人物を一人探す、サンプルの人生の善し悪しも全て引き受ける、全財産を差し出す、という3つの条件があった。車椅子生活の林雨琦は同じ医者の妻でありながら恵まれた環境の羅夫人を、息子がいじめに遭っている英語教師の王福荃は勤務先の校長・許智村をサンプルにした。ある日、恋人の劇団仲間だった劉筱漁が借金のためクラブで働いていると知り、「ワラビの部屋」の話を持ちかける何景城だったが……。恋人の死の真、監督の正体は？人生を変えるのは本当に幸せなのか？鋭い台湾小説家が贈るミステリー仕立てのファンタジー小説。(Y)

◆ 2100円・四六判・301頁・書肆侃侃房・福岡・202503刊・ISBN9784863856639

『稲作の伝来と天皇』●横山寿 著

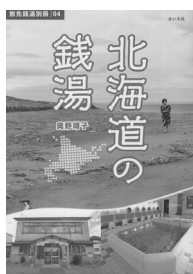


はじめ本書は、遺伝学や分子生物学の先行研究の成果から、栽培イネの品種が、二つのグループに大別されること、さらにはそのうちのジャポニカと呼ばれる品種がさらに二つのグループ、熱帯ジャポニカと温帯ジャポニカに分けられることを述べる。では稲作の起源地はどこか。1973年に長江（揚子江）下流域で水田跡と炭化した大量の籾が出土したことをきっかけに、長江中下流域が注目され、この地域では約一万年前に野生イネが採集され、七千年まえには温帯ジャポニカの水田稲作が始まったとされる。日本伝来の契機となったのは、3千年前の寒冷化の影響により漢族が南下し、長江流域の稲作民を圧迫した出来事に求められる。「稲魂信仰」を携えて、その「稲作民」の一部が東シナ海を渡って日本に渡来し、稲作をもたらした。注目

すべきは後半、記紀を読み込むことで、この稲作伝来からヤマト王権の成立期までの歴史の空白期に明快なストーリーを与えているところだ。それによると「高天原」は長江下流域であり、「倭」と称する越人がそこから東シナ海を渡って九州にたどり着いた。そこから稲作の適地を求めて「天孫降臨」の高千穂くしふる岳の麓を通り、日向に向かった。稲作によって蓄積された富によって邪馬台国を興し、祭祀を司った卑弥呼はアマテラスの原型となり、その子孫が日向から「神武東征」を果たし、大和で初代天皇に即位した…本書は僅か92ページほどのブックレットながら、稲の科学と文化の知見が余すところなく詰め込まれていて貴重である。(N)

◆1200円・A5判・92頁・南方新社・鹿児島・202504刊・ISBN9784861245336

『北海道の銭湯』●奥野靖子 著



毎回日本各地の魅力的な銭湯を紹介してくれる『旅先銭湯』。別冊4巻目にあたる今回は北海道の銭湯です。そして著者はいつもの(失礼)松本康治さんではなく、北海道在住の銭湯ライター奥野靖子さん。そんな北海道を地元とする彼女でさえ、この本をまとめる取材の積み重ねには7年の月日がかかりました。なんと北海道は公衆浴場の数が東京都に次いで多い約1200もあるというのですから(しかも広い)、北海道は実は銭湯大国なのでした。そんな月日の中で、取材はしたものの本書刊行を前に廃業された銭湯もありました。奥野さんはそうした銭湯をついに営業中に紹介できなかったことを本書中で悔いてもいます。

しかしその一方で廃業した銭湯が再生への道をたどるという嬉しい出来事も。もちろんほか

にも最北の地稚内にありながら、ライダーが集結するみどり湯、42℃・45℃・49℃という熱々浴槽が並ぶ函館湯の川の大盛湯など、北海道各所の銭湯がてんこ盛りです。そんな銭湯を奥野さんは、店舗・風呂場の佇まいや魅力的なお店の人たち、そしてもちろんお湯とその魅力を余すところなく紹介してくれます。旅行で北海道という温泉旅館に…というイメージがありますが、こうした地元の人たちに愛されている銭湯に立ち寄りひと風呂浴びるのも旅情がありますね。恒例のうまいもん紹介はスイーツやドリンクもあり、こちらはいつもと違いアルコール度数低めです。北海道旅行のおともにしたい一冊ですね。(副隊長)

◆1700円・A5判・144頁・さいろ社・兵庫・202504刊・ISBN9784916052810

地小出版

流通センター

ジャンル別
新刊案内

2025年4月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は
所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。
ます。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆faura 67 一 大橋弘一が
撮る北海道の野鳥 大橋弘一編著 B
4 63頁 952円 ナチュラルー

[北海道] 978-4-503-23297-7
25/04

◆S-style 2025年5月
vol. 725 プレスアート編
280mm×210mm 112頁 600
円 プレスアート [宮城] 978-4-

503-23295-3 25/05

◆GREEN REPORT 543
2025年4月号 廣瀬 仁編 A
4 191頁 2800円 地域環境ネ
ット [埼玉] 978-4-909864-76-5
25/04

◆かまくら春秋 No. 660 20
25年4月号 伊藤 玄二郎編 B6
107頁 382円 かまくら春秋社
[神奈川] 978-4-7740-0922-3
25/04

◆道 No. 224 木村 郁子編
210mm×275mm 74頁 114
3円 どう出版 [神奈川] 978-4-
910001-52-4 25/04

◆子どもと読書 471号 2025
年5・6月号 親子読書地域文庫全国

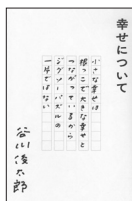
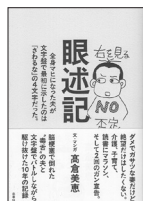
売行良好書

期間：2025年4月15日～5月14日

※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

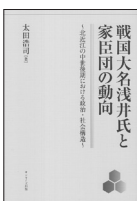
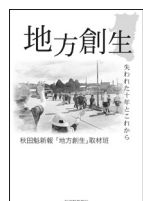
【出荷センター扱い】

- (1)『眼述記』1750円・忘羊社 (2)『ウミガメ博物学』1800円・南方新社 (3)『個展のつくりかた』2000円・風鈴社 (4)『幸せについて』1000円・ナナロク社
(5)『午後のコーヒー、夕暮れの町中華』1800円・書肆侃侃房 (6)『石炭挽歌』2300円・寿郎社 (7)『よみきかせのきほん』750円・東京子ども図書館 (8)『あなたのための短歌集』1700円・ナナロク社 (9)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1800円・アスク・ヒューマン・ケア (10)『現代語訳 上井覚兼日記4』2200円・ヒムカ出版 (11)『水脈を聴く男』2000円・書肆侃侃房 (12)『美食主義者』2200円・クオン (13)『水俣物語』3000円・弦書房 (14)『戦国大名浅井氏と家臣団の動向』8000円・サンライズ出版



【ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本—センター扱い図書】

- (1)『地方創生 失われた十年とこれから』1800円・秋田魁新報社 (2)『ウミガメ博物学』1800円・南方新社 (3)『現代語訳 上井覚兼日記4』2200円・ヒムカ出版 (4)『眼述記』1750円・忘羊社 (5)『戦国大名浅井氏と家臣団の動向』8000円・サンライズ出版 (6)『石炭挽歌』2300円・寿郎社 (7)『毛呂季光』1800円・まつやま書房 (8)『奥多摩登山詳細図 東編 新版改訂』1200円・吉備人出版 (9)『千夜曳摸』1800円・青磁社 (10)『会津義民列伝』1500円・歴史春秋社 (11)『北海道の銭湯』1700円・さいろ社 (12)『出雲国風土記』1500円・ハーベスト出版 (13)『起業 企業支援の実践』3000円・鉦脈社 (14)『新装版 奥武蔵登山詳細図 全130コース』900円・吉備人出版 (15)『歴史を複眼で見る』2100円・弦書房 (16)『ゆるしの奄美』2000円・南方新社 (17)『宮本常一コレクションガイド』1500円・みずのわ出版 (18)『新沖縄文学96』2000円・沖縄タイムス社 (19)『下野の戊辰戦争 増補改訂版』2500円・下野新聞社



トピックス — ★★★

▼2024年に優れた作品を発表した新人写真家が対象となる第49回「木村伊兵衛写真賞」に、現代写真専門出版社である赤々舎から【Mary Had a Little Lamb】(本体6,000円 ISBN: 978-4-86541-193-5)という写真集を刊行した長沢慎一郎氏が選ばれたとのこと。東京都



小笠原・父島の約100年前の欧米系島民の写真に衝撃を受けて撮影をはじめた

という長沢氏ですが、今回の、アメリカの童謡「Mary Had a Little Lamb(メリーさんの羊)」の名が冠せられたこの写真集は、かつて父島に「メリーさんの羊」と名付けられた核弾頭が配備されていたとされる歴史の文脈に迫るもの。「ある壕の奥、闇は深まり、そこには白い塗装で覆われたもうひとつの壕が現れた。腐食した重々しい鉄扉を開け、その密室の空洞に光を当てる。銅板で覆われた壁や天井。ないはずの核が置かれた場所。今はそれが不在である空間を写した写真は、失われた時間と記憶の圧倒されるような量感を湛えている」(赤々舎HP紹介文より)

▼那覇のボーダーインクからこの2月に刊行され、様々な媒体で紹介されて話題となった【カラー化写真で見る沖縄】(本体2,000円 ISBN: 978-4-89982-481-7)は、沖縄の戦前～戦後の白黒写



真をAIを活用してカラー化した120枚の写真を収録したもの。編者・ホリーニョ

氏は当初、米軍が沖縄戦で撮影した白黒写真などをカラー化してSNSで発信してきたとのこと。激しい戦闘の様子より女性や子供ら市井の人たちの写真が多いのは、「当時の暮らしや風景がわかる写真を大切にしたいかった」から。戦後80年となる沖縄慰霊の日を前に本書を紹介したいと思いました。

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

以下ホームページ等でも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
URL: <http://neil.chips.jp/chihosho/> X (旧ツイッター) 公式アカウント: @local_small

ジュンク堂書店

淳久堂書店

池袋本店

営業時間：午前10時～午後10時

池袋であなたのふるさとに帰ってみませんか？

2階「ふるさとの棚」では、
地方小出版流通センター扱いのご当地本を幅広く取り揃え、
皆様のお越しをお待ちしております。

〒171-0022
東京都豊島区南池袋 2-15-5
TEL 03-5956-6111
<http://www.junkudo.co.jp>

